

毛呂山町立小・中学校編成計画（案）に関する説明会 会議録	
日 時	令和6年1月13日（土） 10:00～11:05
場 所	毛呂山町中央公民館 展示室
参加者等	未就学児保護者 45名
毛呂山町	高沢高沢教育長 土屋学校教育課長 道地教育総務課副課長 三浦学校教育課副課長 佐藤学校教育課指導主事 市川教育総務課庶務係長 山口教育総務課管理係主事
発 言 者	内 容
道地副課長	<p>お待たせいたしました。本日は毛呂山町立小中学校編成計画（案）に関する説明会にご出席いただき誠にありがとうございます。今回急遽会場の方を変更させていただいております。人数、寒さ等の関係からこちらの展示室のほうに変更させていただいております。逆に狭い、暑い等があるかもしれませんがご了承ください。さて、教育委員会では、子どもたちにより良い学校のあり方について再検討をし、学校教育における課題、今後の児童生徒数の推移、必要とされる教室数、既存校舎の維持更新などの教育的課題を解決するために、最も望ましい施設形態とその時期を示す毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）を策定いたしました。本日は、この編成計画（案）に関しての説明会となっております。本日の説明会でございますが、人数の把握をするために事前に参加者を募り確認をさせていただきました。ご協力をありがとうございました。また、この説明会に際しまして録音、撮影等にご遠慮いただきたいと思います。なお、教育委員会といたしましては、説明会の議事録作成のため、録音をさせていただいております。議事録の方を作成して、個人の方であなたが言ったとかそういったところはわからないようにいたしますけれども、こういう説明会の中で、こういう意見がありましたということ例えばホームページなりで公開していきたいというふうには考えておりますので、あらかじめご了承くださいと思います。それでは、毛呂山町立小中学校編成計画（案）に関する説明会をはじめさせていただきます。まずはじめに、教育長よりご挨拶をいたします。</p>
高沢教育長	<p>皆さん、おはようございます。毛呂山町教育委員会教育長の高沢でございます。どうぞよろしくお願いたします。また、新年早々能登半島地震ということで大変な被害がございました。尊い命を失われた方々、また被災されて平穏な生活ができなくなっている方々に、お悔やみと心よりお見舞い申し上げます。私たちもできる限りの支援はしていきたいと思っております。是非皆さんもそれぞれの立場でできる支援をしていただければと思っております。</p>

本日は、土曜日でお休みの方もいらっしゃるでしょうし、また、色々と予定があったにも関わらず毛呂山町立小中学校編成計画（案）の説明会にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。毛呂山町の方では幼保小中連絡協議会というのを編成してごしています。幼稚園、保育園の段階から中学校まで一貫して子どもたちを見守っていきましょうということで設置されたものです。それぞれの機関の方で、上下の接続がスムーズにいくように色々な連絡会の中で情報交換をしながら毛呂山の子どもたちの育成に務めております。日頃より保護者の皆様には各小中学校の教育活動にご理解とご支援をいただきますこと感謝申し上げます。ありがとうございます。毛呂山の小中学校なんですけども、先週の火曜日、9日より3学期が始まりました。3学期は1、2、3月の短い期間ですがそれぞれ学年のまとめ、そして進級、卒業と大変慌ただしい時期なんです、でも9日、各学校より児童生徒元気に登校して、無事に3学期が始まりましたという報告を校長先生から受けております。ちょうど始業式の後だったんですけども、小中一斉下校ということで中学生がそれぞれの小学校の下校班と一緒に下校すると。万が一の災害に備えたり、あるいは緊急時の避難態勢ということでこれもう数年かけてやっております。学期の始めや学期の終わりにそういう行事を設けて、小中学生が学習ですとか行事ですとかをそういうことを含めて連携した教育の取り組みを行っております。何かの機会に見かけたらこういう行事もあるんだなということで是非関心を持っていただけたらと思います。

さて、教育委員会の方では、世の中の少子高齢化、また地域のコミュニティの希薄化等に伴って、子どもたちにより良い教育を与えるにはどうしたらよいかということで、平成25年度より検討してまいりました。各関係機関の皆さんや地域の代表の方、また学識経験者、小中学校の校長先生などから2回ほど提言をいただきまして、それらを元に平成30年度に未来を拓く人づくり～小中一貫教育プロジェクト～という基本方針をまとめて町ホームページなどでお知らせをさせていただきました。この基本方針を元に中学校区ごとに毛呂山中学校区と川角中学校区、それぞれ中学校1校と小学校2校で、9年間を見通した教育計画のもとに各学校が連携した教育活動を行っております。

令和8年、10年に小中一貫校を開設するということがあったんですけども、この間、コロナの関係ですとか、小学校で1クラス35人学級という学級編成の導入があって今の教育環境に対応するためにはもう少し検討が必要だろうということで、実は昨年度毛呂山町小中学校のあり方の検討委員会というのを設置して、委員の皆様からご意見をいただきました。環境は人を作るとよく言われます。環境とは教育設備であったり、また人では先生であったり、地域の皆さんであったり、保護者の方であったりという

	<p>ことで学校の教育活動に多くの方が関わっていただいております。特に人は、先ほど申したとおり、学校の先生だけではなくて、今毛呂山の教育の中では地域の方々が学校の教育に参画していただくということで、さまざまな教育活動の中でご協力いただいております。それと併せて施設設備なんですけども、学校の体育館や校舎、それから学習に使用する教材や教具、さまざまな学習に関することが日進月歩で変化しております。それらに併せて、子どもたちに安心安全でより良い教育環境を提供するためにはということで、このプロジェクト基本方針をもとに9年間を見据えた小中連携の教育活動を展開しております。その中で毛呂山の子どもたちには是非夢を持ち、世界に羽ばたく毛呂山の子どもたちになってほしいという願いが込められております。本日はその育成、教育に向けたこれからの小中学校の教育を行うにあたってのあり方について、学校編成についての町の教育委員会の考え方をお示しさせていただきます。画面の方の表示とそれから説明の方をこれからさせていただきます。また説明の後に質問やご意見をいただけたらありがたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
道地副課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の説明会に際し、職員の紹介をさせていただきます。</p>
	<p>～教育長、事務局の順に自己紹介～</p> <p>以上、よろしくお願いいたします。</p>
道地副課長	<p>それでは、早速説明に入らせていただきますが、まずお配りした資料の確認をさせていただければと思います。お手元に次第と資料と感想用紙がございますでしょうか。感想用紙については説明会終了後、受付の箱の方にご提出いただければと思います。説明会に際しまして、説明はお手元の資料を元に説明をさせていただきますが、資料が白黒という部分と一部資料がないものもがございますので、できればスクリーンを見ていただければと思います。それでは説明に入らせていただきますが、以後説明と質疑応答については職員着座にて行わせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>初めに実施時期と施設形態についてですが、小中一貫教育の更なる充実と児童生徒のより良い教育環境を整備するために、川角中学校区は施設一体型小中一貫校、毛呂山中学校区は施設隣接型の小中一貫校という形で、両中学校区とも令和11年度の開設を目指すことといたしました。このような結論に至った経緯についてお話をさせていただきます。</p>

平成の時代から少子高齢化が社会的にも大きな課題となっていました。そのような中で、少子化に対応した学校規模の適正化は全国的に大きな課題でもあり、平成27年1月に文部科学省から公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引きが出されております。手引きでは、「児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨することを通じて1人ひとりの資質や能力を伸ばすという学校の特質を踏まえ、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考える。」とされております。画面、資料には記載されておきませんが、学級数が少ないことによる学校運営上の課題といたしまして、クラス替えが全部または一部の学年でできない、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる、生徒指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける、児童生徒から多様な発言が引き出しにくく授業展開に制約が生じる、このような学校運営上の課題が児童生徒に与える影響といたしましては、集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい、児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい、教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある、切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい、進学等の際に大きな集団への適用に困難を来す可能性がある、多様なものの見方や考え方・表現の仕方に触れることが難しい、多様な活躍の機会が無く多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しいなどが挙げられ、小学校では1学年2学級以上が望ましい、中学校では9学級以上を確保することが望ましいという形となっております。

それでは、子どもたちの置かれている現況について詳しく見ていきたいと思います。こちら平成27年の文部科学省の「少子化に対応した活力ある学校づくり」に関する参考資料より生産年齢人口の推移となっております。赤い線が生産年齢人口、緑が高齢者人口、青が児童生徒の人口となっております。子どもの数が減少するに伴って、生産年齢の人口は減少していき、高齢者の人口は増加しています。いわゆる少子高齢化でございます。こちらは共働き世帯の推移となります。昭和55年から平成25年になりますが青色が共働き世帯となっております。共働き世帯の数が昭和から平成で急激に増えていることがわかります。平成3年・4年あたりで共働き世帯が逆転しております。続きまして現在の状況となります。先ほどの画面昭和55年とは完全に逆転していることがわかると思います。こちらは、令和2年度国勢調査の結果から、世帯数と1世帯あたりの推移を表したグラフとなります。棒グラフが世帯数、赤の線が1世帯あたりの人数となっております。世帯数は増えていって、1世帯あたりの人数は減っている状況です。令和2年は1世帯あたりの人数は2.27人となっております。

	<p>す。こちらは、児童のいる世帯の状況となります。右側の白い部分が児童のいない世帯にですが、児童のいる世帯数が右、児童のいる世帯数の平均児童数も減っていることがわかると思います。こちらは資料にはございませんが、家族の中で、対人関係を形成する組み合わせになります。2人家族では1通り、3人家族では4通り、クレヨンしんちゃんのような4人家族では11通り、5人家族では26通り、サザエさんのような7人家族では120通りとなります。先ほど、児童のいる世帯の状況を確認しましたが、今の子どもたちは家族の中で対人関係を形成するのが難しくなっています。そのため、学校において多様な人間関係を体験することが重要となります。こちらは毛呂山町の児童生徒数の推移です。児童生徒数は、昭和60年度の5,275人をピークに減少しており、令和5年度では1,801人となっており、ピーク時に比べると約34%まで減少しています。続きまして、こちらは児童生徒数の将来推計です。減少してきた児童生徒数は、今後も減少していくことが推測されます。こちらは学級数と教員数となります。ちょっと見にくいんですけども、括弧内は特別支援学級数です。令和11年度以降には、光山小学校、泉野小学校が全ての学年で単学級となる見込みとなっております。また、教員数については、小学校で校長、教頭、養護教諭、事務職員を除いた担任以外の教員については光山小学校は既に1人となっております。泉野小学校は令和7年度から、川角小学校においては令和11年度から、毛呂山小学校は令和15年度から担任外は1人となる見込みとなっております。</p>
高沢教育長	<p>ちょっと補足します。(画面：今後の学級数と教員数の見込みを指して) この数字の中に(2)と入っておりますが、特別支援学級の学級数で、2学級となっております。校長、教頭、養護教諭、事務職員を除いた教職員数がこの数字になります。管理職、養護教諭、事務職員を除いた数が普通の教員の数となりますが、例えば令和5年度の光山小学校は9人となっておりますが特別支援学級の先生2人を含んでいますので9人から2人を引くと7人となります。単学級は学年で1クラスのことをいいますが、1年生から6年生それぞれに担任の先生を充てると6人で担任外は1人という説明になります。8人になった場合には、担任6人と特別支援学級の先生2人で担任外の先生が0人になってしまうということをご理解いただけたらと思います。</p>
道地副課長	<p>続きまして、小中学校施設の建築年度です。町の小中学校は6校ありますが、全ての学校が建築後40年以上経過している状況です。こちらは、小中学校の改修の状況です。耐震化改修、空調改修、トイレ改修、大規模改修の状況です。大規模改修ですが、工事が済んでいるのが毛呂山中学校と</p>

川角中学校、毛呂山小学校の体育館は大規模改修が済んでいます。今後、全ての学校を存続させるためには大規模改修が済んでいない小学校に対して大規模改修が必要と考えています。毛呂山町の教育をめぐる状況を説明してきましたが、児童生徒数の減少、児童生徒数の減少に伴う教職員数の減少、施設の老朽化などこれら毛呂山町の教育をとりまく課題に対して教育委員会では検討委員会等を立ち上げて協議して参りました。平成25年・26年度には毛呂山町立小中学校将来構想検討委員会において、学校の適正規模について提言をいただいております。小学校では各学年2クラス以上、中学校では各学年3クラス程度が望ましい。通学においては、小学校では40分以内、中学校では1時間以内、ここの通学40分以内というのは通学距離にするとおおむね3キロという形で提言をいただいております。平成28年・29年度には毛呂山町学校教育環境等検討委員会において児童生徒の今後の教育環境について検証を行いました。その結果、平成30年に未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針を作成し、小中一貫教育に取り組んでおります。こちらは、未来を拓く人づくりプロジェクト基本方針のグランドデザインになっておりますので、後ほど資料の方を確認していただければと思います。

小中一貫教育の導入の主な狙いです。小中学校9年間の見通しを持ち、連続性のある学習活動を展開し、学力や体力の向上を図ること。また、小学校から中学校へのスムーズな移行により、中1ギャップを解消して中学校段階での学習のつまづきや不登校の解消を図ること。さらに教職員が、子どもの学びの連続性について小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導・生徒指導等の充実・改善を図ることで更なる学習向上や不登校の解消を目指してまいります。それでは、令和3年度に小中一貫教育の取り組みがゆずの里ケーブルテレビにて放映されましたので、それをご覧いただきたいと思っております。

～ゆずの里ケーブルテレビの映像を流す～

(令和3年11月16日 川角中学校区令和3年度第1回小中一貫教育合同研修会)

今、見ていただいたのが小中一貫教育の授業の様子となりまして、毛呂山町としてはこういった形で小中一貫教育を進めているところでございます。続きまして、また説明に戻らせていただきます。

こちら令和5年1月27日に毛呂山中学校で小中一貫教育合同研修会が行われました。この日は、3時間目から毛呂山小学校の6年生が毛呂山中学校で授業を行っております。こちら5時間目の公開授業の様子です。6年1組が社会科の授業、6年2組が英語の授業を行っております。どちらも

中学校の内容でしたが、授業の終わりに中学校教員から「集中して授業に取り組み、内容を理解して積極的に発言できていてすごい」と褒めている場面がありました。小学生たちは目を輝かせて、自信に満ちた表情をしているのが印象的でした。また、小学生から「中学校の校舎だけど、小学校の先生がいてよかった」との感想もあったようです。小学校教員と中学校教員が同じ教室で授業を行うことは児童生徒の安心できる環境であると改めて気づかされました。続きまして、こちらは給食の様子となります。中学生が小学生の配膳を手伝っています。中学生の思いやりの心が育っていることを感じられました。続きまして、こちらは清掃の時間になります。毛呂山中学校では清掃の時間は一切おしゃべりをしない無言清掃を行っています。無言で一生懸命に掃除をする中学生の姿を見て、6年生も同じように一生懸命掃除をしていました。こちらは、昼休みの様子になります。中学生が6年生を誘って大縄を楽しんでいました。小学生から「休み時間に中学生と遊べて楽しかった」と言っていたようです。今後もこのような交流をすることで、中学校への進学不安を軽減し小学校から中学校への滑らかな接続ができるようにしていきます。また、泉野小学校の6年生も毛呂山中学校で同じように授業を行いました。こちらは、毛呂山町小中一貫教育の義務教育9年間の捉え方です。今後も小学校6年間と中学校3年間を分けることなく、義務教育9年間を一体として捉え、小学校から中学校へ滑らかな接続を目指し、夢を持ち世界に羽ばたく毛呂山の子どもを育成するために小中一貫教育を推進して参ります。このような小中一貫教育の更なる充実と、児童生徒のより良い教育環境整備をするために、川角中学校区は施設一体型の小中一貫校、毛呂山中学校区は施設隣接型の小中一貫校を令和11年度の開設を目指して参ります。

それでは、施設一体型・隣接型で目指す一貫教育でございますが、一体型・隣接型では小学校と中学校の教員が同じ校舎または同じ敷地にいるため教員同士の連携がしやすくなります。そのため、中学校教員などの乗り入れ指導などが充実し、小学校における教科担任制の更なる強化を図ることができます。また、授業や部活動などの指導内容や指導方法を共有しやすく、児童生徒の学習や成長をより効果的にサポートをすることができます。さらに、中学校には数学室や外国語室を整備し、生徒の学びたい気持ちを引き出す、後ほどまた説明させていただきますが、教科センター方式を導入し、児童生徒の学力向上を図ります。次に、児童生徒の交流についても、児童生徒の交流する機会が増え、異学年理解や協働学習が促進され、上級生は下級生に対する思いやりやリーダーシップの育成、下級生には目標にすべき身近な生徒像の具象化を図ることが期待できます。家庭・地域の交流については、会議室、コミュニティルーム、コミュニティスペースを整備し、学校が地域コミュニティの拠点となるようにして参ります。

また、施設一体型・施設隣接型となるため、保護者や地域の方にとって、より効率良く学校との協働ができるものと考えております。保護者や地域の方との交流の充実を図り、家庭・地域と一体となって児童生徒を育成して参ります。

こちらは統合年度等です。まず、川角中学校区です。川角小学校と光山小学校を統合し、川角中学校の敷地・既存校舎を利用するとともに、川角中学校敷地内に小学校校舎を増設する施設一体型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の川角小学校の推計児童数は177人、学級数は特別支援学級2学級として9学級です。光山小学校の推計児童数は149人、特別支援学級2学級として8学級となっております。川角小学校と光山小学校を統合した小学校の推計児童数は326人、特別支援学級を2学級として15学級となる推計です。統合後の小学校の児童数は、現在の川角小学校が321人ですので、ほぼ同じ人数です。また、統合することで担任外の教諭が2人となる予定です。続きまして、毛呂山中学校区です。毛呂山中学校区は小学校と中学校の敷地がもろっ子橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。これは、施設一体型とほとんど変わらない立地となります。そこで、毛呂山小学校と泉野小学校を統合し、毛呂山中学校と毛呂山小学校の隣接した敷地・既存校舎を利用し、毛呂山小学校を大規模改修し、施設隣接型の小中一貫校で令和11年度の開設を目指します。令和11年度の毛呂山小学校の推計児童数は266人、特別支援学級を2学級として14学級です。泉野小学校の推計児童数は182人、特別支援学級を2学級として8学級となっております。毛呂山小学校と泉野小学校を統合した小学校の推計児童数は448人、学級数は特別支援学級を2学級として17学級となる見込みです。統合後の小学校の児童数は、現在の毛呂山小学校の322人より多くなります。クラス数では、1年生から3年生までが2クラス、4年生から6年生までが3クラスとなる予定です。統合するそれぞれの小学校について、教育委員会の基本的な考え方として、毛呂山小学校と泉野小学校については、毛呂山小学校の歴史を継承していくこと、川角小学校と光山小学校については、川角小学校の歴史を継承していくことを考えています。学校名や校旗、校章、学校の沿革史は毛呂山小学校・川角小学校のものを継続していくことを基本方針と考えています。こちら川角中学校の敷地イメージです。増築校舎は校舎の西側・プールの横あたりを検討しています。こちらは職員室からのグラウンドへの視野確保、野球場、テニスコートの確保を考えた場所となります。増設校舎は2階建てを考えております。また学童保育所を移設し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保をいたします。更に、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメー

ジを、右下になりますがお示ししております。こちら今後の基本設計などで詳細を決定していきますが、まずは教育委員会で検討した結果です。こちらは川角中学校の増築校舎のイメージになります。こちらは1年生から4年生までが利用する増築校舎で、5年生・6年生は既存中学校舎を利用する形となります。1年生から4年生までは、特別教室の利用頻度など学校での生活スタイルが似通っており、中学生との体格差などによりゾーニングなども考え、増築校舎の教室整備となります。増築校舎にはオープンスペースなどの整備を検討し、多様な学びを促すことにより学びに向かう力の育成に努めて参ります。また、小学生4年生以下が理科・図工・音楽室の授業をする多目的教室を配置する予定となっております。こちらは多目的室の他の自治体のものになりますが、このような形で多目的室を整備していくことを考えております。また校舎については木質化・木造などを検討して参ります。こちらは川角中学校の既存校舎のイメージとなっております。小学5年生・6年生と中学生、特別支援学級の児童生徒が主に利用することになります。5年生・6年生の教室を中学校舎に整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、小中学生が一緒に生活するための成長過程に応じた更衣室なども配置して参ります。中学校の教室を活用した教科センター方式を導入して参ります。教科センター方式とは、英語教室・数学教室のように教科ごとに教室が決まっている方式です。教員が教えるクラスに合わせて教室を移動するのではなく、生徒が受ける教科によって教室を移動します。生徒が受け身で待っているのではなく、自ら学びに行くという姿勢が育まれます。また、専用教室には数学ならグラフ黒板を常設したり、英語なら英語の掲示物を掲示したり、英字新聞や洋書を並べるなど教科の学習に特化した環境を整えることができます。各教科の教室に全ての授業の用意が整っているので、チャイムが鳴って授業が始まると同時にその教科の学習に専念することができます。生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながる事が期待できます。続きまして、毛呂山小学校・毛呂山中学校の敷地イメージです。毛呂山小学校と毛呂山中学校は図中央のもろっこ橋で繋がっており、敷地を一体的に利用することができます。施設整備ですが、毛呂山小学校を大規模改修をし、小学校校舎として利用します。また、学童保育所につきましては、入所児童推計により泉野小学校の児童も既存の毛呂山小学校内の学童保育所を利用し、学童保育児に対しての放課後の居場所に対する安全確保をいたします。さらに、小学校が統合することにより通学距離が長くなる小学生児童に対してスクールバスの整備をいたします。その発着所のイメージを左上に赤く塗ったところがございますが、お示しいたしております。毛呂山小学校の校舎イメージです。現在の使用状況と変わらず、1年

	<p>生から6年生までの小学生が利用します。毛呂山中学校の特別教室及び小中一貫教室を利用し、中学校との交流機会を多くしていくため、南側のA棟のみの大規模改修を行います。また、大規模改修の際にはコミュニティスペースを整備し交流の充実に努めて参ります。校舎の大規模改修については、このような形の本質化を検討しております。毛呂山中学校校舎のイメージです。中学1年生から3年生までの中学生が利用します。小学5年生・6年生が授業を行う小中一貫教室を整備することにより、中学校の教員に授業を補助していただく機会が増え、小学校高学年からの教科担任制の強化が図られます。また、中学校の教室を利用した教科センター方式を導入することにより、生徒の学びたいという気持ちが高まり、学力の向上につながることを期待できます。こちらは、統合準備委員会、部会の案となりますが、統合に関わる色々なことに対して準備委員会を立ち上げ、スムーズに進められるよう努めて参ります。</p> <p>今後のスケジュールです。12月には既に説明会を開催いたしております。今後1月にかけて編成計画(案)を説明し、ご理解いただけるように努めて参ります。1月から2月にかけて既にパブリックコメントを実施しております。3月に計画の策定と考えています。また、令和11年度の開校に向け、設計、工事を順次進めて参ります。説明は以上となります。ありがとうございました。</p>
道地副課長	<p>説明は以上となりますのでこれから質疑応答の時間に移らせていただきたいと存じます。質疑のある方は大変申し訳ないのですが、挙手いただき、お名前を言っていただき質問をお願いいたします。それではよろしく願いいたします。</p>
A	<p>Aと申します。お話、ご説明ありがとうございました。まず一点確認なんですけども、今後のスケジュールということで、ページ数29ページになりますが、本日、これ皆さん初めて説明を受けた方がほとんどだと思うんですけども、今日この質疑等がですね、何もなければこの3月にパブリックコメントを経て、令和6年3月に編成計画の策定となっておりますが、そのような認識で間違いないでしょうか。今日初めて説明を受けて、皆さん保護者の方たちは、一番ここに未就学児の方の集まる会だと思えます。一番影響が大きい親御さん、もしくはお子さんかと思えますので、その点スケジュールはこの認識でよろしいでしょうか。今日が質疑応答をいただく時間としては最後という認識でよろしいでしょうか。</p>
道地副課長	<p>はい、そうですね。今回質疑応答を設けましてさらに、先ほど少し言わせていただきましたけども、今2月9日までのパブリックコメントというも</p>

	<p>のを実際に実施しております。こちらは教育委員会の教育総務課またはホームページ上で計画案を公開しておりますが、そのパブリックコメントを経て、今おっしゃっていたような形で3月にこの計画を策定といったような形の流れになっております。</p>
A	<p>ありがとうございます。ですので、皆さんぜひ、ここで賛成反対を問うわけではないと思いますのでご不安な点、不明な点があれば是非私だけではなく発言していただきたいと思いますけども。まず私から中身について1点なんですけども、今回の説明いただいた案によりますと川角中学校は実質川角小学校と光山小学校がなくなってしまって、川角中学校に新しい校舎が建つということで、個人的にはうれしいことだと思っておりますけれども、例えばそういうふうな形態を好ましくないと思う方がいらっしゃるすれば、学校区の変更っていうのを毛呂山町は認めているのでしょうか。例えば毛呂山小中学校に通いたい、川角中学校区の生徒であっても、そういう考え方があっていいのかなど、個人的にはこういうふうに二分されますので、その点の自由度というのはどうでしょうか。</p>
土屋課長	<p>学区の変更につきましてはいわゆるその基本的には住所のある学校に通っていただくこととなっております。今現在も指定校変更という、いわゆるこちらからお示した学校の変更というのは色々な事情がある場合については認めているところでございます。今後の方向性としてはいわゆる学校の形がちょっとというところではそれには当たらないかなと考えております。そういうところではなくて、なんらかの事情で住所は変わっているんですけどいわゆるその6年生最高学年であったりとか、中3であったりとかについては、そういったものについては変更を可能としておりますので今のルールに則って今後もやっていくような形で考えでおります。以上です。</p>
A	<p>ありがとうございます。</p>
B	<p>Bと申します。スクールバスについて質問させていただきたいのですけれども途中の記載に確か3キロ以内、小学生であれば40分以内が望ましいなどが13ページに書いてあったんですけどもこれを超える通学時間になる児童がスクールバスの対象になるっていうようなイメージでよろしいでしょうか。</p>
道地副課長	<p>実際にスクールバスについてはおっしゃったように3キロ以上を目安の行政区を考えておりまして、今のところの見込みといたしましては川角中学</p>

	<p>校区では目白台3丁目、4丁目、東原団地、苦林、玉林寺、毛呂山中学校区に関しましては目白台1丁目、2丁目、箕和田、また山間部 滝ノ入、阿諏訪、大谷木、宿谷、権現堂というような形でこちらスクールバスだけでなく、学童バス等も含めて複合的な形で考えてございます。</p>
B	<p>わかりました、もう一個質問があるんですけども これから工事スケジュールって形で29ページに記載があるんですけども、この工事レベルっていうのは大規模工事にあたるものだと思っていてよいでしょうか。</p>
道地副課長	<p>川角中学校区に関しましては実際に増築の校舎の部分と一部ちょっと口頭での説明はしていないんですけども、川角中学校の校舎も改修を、トイレを増設をしたり大規模改修する部分がございますので、そういった物も含めた工事が川角中学校で令和9年、令和10年で行う、毛呂山中学校区に関しては毛呂山小学校の大規模改修を2年かけて行うというスケジュールになっております。</p>
B	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
C	<p>Cと申します。今日は週末のお忙しい中このようなご説明いただいて大変ありがとうございます。今日いただいたお話というのは基本的には文部科学省から平成27年度にでていた小学校と中学校は一緒にしていった方がいいんじゃないか、特に少子化が進むところではいいんじゃないかという指針を受けてのことだと思います。その中で既に中1ギャップであったり、中学校に移行するのにこれはいいシステムだと書かれている。でもその中にですね、ハード面をただ単にくっつけるのではなくてこれはしっかりソフト面、9年間だからできる教育というのを各自治体でしっかり考えてやれというのがある。今日聞いたお話の中ではハード面に寄っていて、毛呂山町として夢をもつ世界に羽ばたくという非常に大きな提言をしている中で具体的にじゃあ変わったなら何をやっていくんだというのが少しわかりにくかったと思いますので今後、他の保護者の方でありますとか地域住民に説明されるときは毛呂山町として何を特色として9年一貫にしてやってくのかという説明があるとですね、保護者、地域の方々皆さん納得する形になるのかなとこういうふうに思います。すいません、提言ではなかったので大変恐縮なんですけど是非頑張ってやっていただければと思います。</p>
高沢教育長	<p>ありがとうございます。今のご質問はハード面の説明も多く含まれていて学習内容、ソフト面の方についてはまだまだ充分じゃないんじゃないですか、それも含めて今後丁寧に説明することによって理解が深まるでしょう</p>

ねという真意のご意見だったと受け止めております。特にあのソフト面の方の小中一貫教育につきましては平成30年度の小中一貫教育プロジェクト基本方針、こちらの方に示させていただいて、もう既に30年度から少しずつですがやっている内容なんですね、今日、画像等でお示しした取り組み等については既に小中学校の連携等についてはやっていることなんですね。今後の課題とすると、説明の中でもありましたけれども、小学校の方で、専科教員による専科教科が今後増えていきます。今、小学校では音楽ですとか、理科ですとかあるいは、外国語、英語の教科の指導のところで小学校の先生がなかなか専門に、今までやってきた方がいらっしゃるなので特に中学校の方の英語の先生、それから音楽の先生などが小学校に行って実際小学校の先生と中学校の先生がチームティーチングという形で授業を行うことをやっております。現在、毛呂山町の方ではそのプラスアルファとして中学校の方から美術の先生が小学校の方に行ったり理科の先生が小学校の方に行ったりということで高学年の授業の中身の充実、指導の充実をやっております。それをさらに深めていって小学校の児童の方にも算数や外国語の授業の中身をさらに充実させることで小中の先生方の連携は行っております。今後、実は文科省や県の方では今やっている専科教科に併せて算数、理科それから体育、それから外国語この4つの教科については小学校でも専科をさらに進めていきましょう、ということでそういうカリキュラムを組んで人の配置等を含めてやっておりますが、なかなか小学校の方で理科専門の先生とか、外国語専門の先生とか、英語専門の先生といわれても中々すぐにこうね、育成とかそれから教科の特化した内容を指導できるというのは全てカバーできないのが状況なんですね。そこでそういうところを中学校の英語の先生や数学の先生、あるいは体育の先生が授業実数を調整して小学校の方の授業に出向きましょうと。そのためにも施設が隣接したり、あるいは一体の方が時間的なロスがなかったり、あるいは同じ施設内に小中の先生がいて顔見知りの先生が僕たちの授業を持ってもらえるんだということで安心感もありますので、そういったところの準備をこれから徐々に進めていきたいということで、今お話のあったソフト面の方、学習面の方についてはそういう形で、これから補助を、あるいは計画的に進めていきたいというのが町の考えでございます。ちょっとあのなかなかセンター方式なんて言葉も出てわからなかったかと思うんですけども、教科センター方式、皆さんも理科の授業は理科室で、技術科の授業は技術科室でというので、特別教室でやったと思うんですけどもそれを英語や数学の時間でやっていきたいというのが教科センター方式の説明です。また、もしわからないことがありましたら何なりと聞いていただければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

高沢教育長	いかがですか。はい、どうぞ。
D	Dと申します。川角中学校の敷地イメージをちょっと見させていただいているんですが、実際、小学校と中学校が同じ敷地内で一つになるということで実際のところ人数が倍くらいになる、この敷地に対して倍くらいの人数になるという感覚かと思うのですが、今、現状、どのくらいの感じでこの敷地を使っているのかわからないんですが、例えば授業以外の部分、例えば昼休みであるとか休み時間そのあたりに対して、小学校1年生から中学校3年生までいるということなので敷地が半分に、えっと敷地が同じなんですけど人数が倍になるので、そこに対してどのようにこう、デメリットが生じてくると思うんですね。狭くなることに対しての。それに対しての対策なのか検討なのか何か考えられていること、想定されてることは何かありますか。
土屋課長	今現在の話をさせていただきますと毛呂山中学校区と川角中学校区を比べた場合には川角中の方がグラウンドが広いんですね。まあその中でも増築校舎等建てていくところはあります。この状況であってもまだ毛呂山中と同じくらいのグラウンドの広さは確保できている状態であります。やはり子どもの数が今減ってしまして、実際に中学校は昼休みしか外遊びしないので、小学生は2時間目が終わった後、業間休みといった時間があって休み時間少し長いのでそこではグラウンドで遊んでいます。その中で中学生が昼休み遊んでいる様子を見るとほんとに校舎の近く、まあ戻りやすいからというところもあるんですが、そういったところで全部広々と奥まで使っている状況は今ない状態でもあります。そういったところもありまして今遊具スペースをこのあたりに考えておりますが、職員室はこちらになります。なので増築校舎もありますので小学生がこのあたりで遊べるような十分なスペースはとれると思っております。こちらの中校地というんですけども、ここも広く使えますので小学生が遊ぶスペースも充分あります。あとエリアを分けて、中学生は体力もありますのでエリアを分けて、今ほとんど遊ばれていない奥側も使えますのでそういったエリア分けをして昼休みについてはみていきたいと思っております。また安全面も気にされるかなと思っておりますが、小学校の先生も中学校の先生も基本的には子どもと一緒にこういったところで活動していますので、先生も一緒にいるような遊ぶような形の学校であるかなと思っておりますので、安全面についてもそういった配慮もできますのでご安心いただければと思います。
道地副課長	何でもかまいませんのでし疑問に思うようなことがあれば。今日初めて聞いて、なかなか質問という部分も難しいかなというのも承知しておりま

	<p>す。教育委員会としては、先ほどこの会でということも言いましたが、今後ご自宅に帰っていただいて資料を見ていただいた上で、あれこれちょっと疑問に思うようなことがあれば、教育委員会の方に質問いただければ回答もいたしますので今日どうしてもという部分でなければまた後ほどでもかまいませんので、質問をいただければと思います。</p>
高沢教育長	<p>いかがですか。では、ちょっと。今、川角中学校の敷地イメージがでてい るんですけども、私、川角中学校で教員も、それから校長もやらさせていただきました。グラウンドがとっても広いところですので、サッカーと野球と陸上が同時展開で部活をグラウンドでやっていました。ただ、11年の時にサッカー部があるのか、陸上部があるのかというところもこれからの生徒数の見込みでですね、部活が統廃合になって、野球部は毛呂山中学校と一緒に活動しますよと、サッカー部は毛呂山中学校と越生中学校も含めて3校で合同チームを作ってやりますよと、もう既にそういう部活の編成は始まっております。また地域移行でテニスは地域の方をお願いして総合公園あるいは川角テニスコートでやりましょうなんていうね、学校の敷地を使わないことも予想されます。あと小学校の児童たちが4年生まではこの教室、増築校舎を使いますので、低学年4年生までが行動するエリアですとか、あるいは中学生が活動するエリアっていうのは、ゾーン分けは充分できますのでそういうところで子どもたちの事故防止には努めていきたいと思えますし。体育館それから武道場というのがあります。こちらの方も平らなフロアの武道場ですので、板張りの武道場ですので小学校低学年等の体作り運動、マット運動なんかはこういうところでもできますので、今ある施設を充分活用できるような時間編成、プログラムはもう学校教員の方で作りながら授業に差し支えないように施設を有効に活用できるように進めさせて頂いております。毛呂山中学校の方は学校の真ん中に、両校の真ん中に水路がありますので、そのところに橋をかけてお互いに行き来できるようにもう既にしてあります。ですので、先生方の交流ですとか、児童生徒の交流はそのもろっこ橋というところを使ってお互いに行き来できて、交通の事故等の軽減には努めております。それも同じように毛呂山中学校区と川角中学校区、同じように施設は有効に使っていくという計画は立てていますので、そんなことをこれからどんどん進めていくということになります。</p>
道地副課長	<p>もし無いようでしたら、先ほども言いましたけれども教育委員会の方に後日質問をいただければ回答をいたしますので、今後ともよろしく願いいたします。それでは教育長から一言お願いいたします。</p>

高沢教育長	<p>本日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。教育委員会の方では未来を担っていく児童生徒、とにかく毛呂山町の方で、地元愛、それから愛校心等を持って、毛呂山で長く活動していただくそういう児童生徒をぜひ育てていきたいと思えます。実は小中学校の教育の中に地域の方がたくさん入ってきて学校教育なんかを手伝って頂いております。教員だけでは目が行き届かないような学習、例えば小学校の家庭科の授業のミシンがけの時に地域の方、あるいは保護者の方が入ってくださったり、あるいは学校ファーム、野菜を作ったり草花を育てたりするような土地の管理を地域の方々が手伝ってくれたりといろんな場面で地域の方が入ってきてくださっています。そういう地域の方の活動の場所も校舎の中に設置して行って、学校、家庭、地域3者が一体となって教育が進められるように今後も進めていきたいと思えます。その点も含めて今後も保護者野方、地域の方には協力をいただく場面が多いんですけども将来の子どもたちの育成のために是非お力添えとそれからご理解をいただけたらと思えます。私の方が説明をさせていただくようなこのような動画も作りました。後ほど町のHPの方に上げさせていただきますので、もしお時間あったら、説明が足りないところがあったら見ていただければと思えますし、今日お家に帰って資料を見たときにこれなんだろう、ちょっと聞き漏らしちゃったかなというのがありましたら、遠慮なく教育委員会の方にお問い合わせいただければ、お答えさせていただきますと思えます。貴重な時間を共有させていただき本当にありがとうございました。今後とも是非、お子さんたちを温かくこちらも見守って行きたいと思えますのでご理解ご協力をお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。</p>
道地副課長	<p>以上をもちまして、毛呂山町立小中学校学校編成計画（案）に関する説明会を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>